



前号で共和公会堂の石造物にほんの少し触れました。共和公会堂にある石造物の中で目をひくのが、屋根を掛けられた建物の中の座像です。

共和公会堂の石造物

黒岩探訪

たんぼう

47

KUROIWA くらいわ

左は「如意輪観音座像」です。蓮弁に座る姿になっていきます。その下の石柱の部分の正面に「廿二夜佛」と彫られています。つまりこれは「二十二夜塔」と言われる石造物です。江戸時代の天保四年(1833年)に建てられたもので、「願主惣連 下黒岩村 谷津 田中 阪下」とあります。二十二夜とは月齢を表す呼び方です。月齢で一番なじみのある「十五夜」は満月です。満月は、夜になると(夕刻)東の空に見られます。一日後の「十六夜(いざよい)」は、それより少し遅れて出てきます。以降、月の満ち欠けに合わせて次のような言い方がされてきました。「十七夜」立待月(たちまちづき)「十八夜」居待月(いまちづき)「十九夜」伏待月(ふしまちづき)以後を、寝待月(ねまちづき)二十二夜は、月の形でいうと「半月・下弦の月」です。二十二夜塔の説明について、『富岡市の石造物』から引用します。「二十二夜待は、旧暦二十二日の夜に行われる月待行事である。省略して「二夜待」ともよばれ安産信仰と結びついており、ほとんど女人講(女性だけの講)である。二十二夜塔は、この講中によつて造立されたもので、如意輪観音の像や「二十二夜」の文字を刻むものが多い。(中略)本市内で確認できる二十二夜は四二基でこの地域の月待塔の主軸とな

っている。黒岩探訪14号であげた庚申信仰は、庚申の日にある地区の人々が一堂に会して、夜通しおしゃべりや食事をする行事です。わたしは、これは男性中心の行事であると感じていますが、それに対して二十二夜待は、意味合いは違いますが、女性が半月の夜がくるのを楽しみにしていた行事であつただろうと想像します。共和公会堂の二十二夜塔は、「谷津、田中、阪(坂)下」(今の田中地区から共和地区)の女性が集う講を記念して建てられたものです。女性の団結力を示しているようにも感じます。上段右の写真は「弘法大師座像」です。江戸時代の天保十四年(1843年)に建てられたもので、台座に「三組女人中」とありますので、女性版の月待行事に関連するものと推測されます。

共和公会堂には、他にこのような石造物があります。

- ◁庚申塔
- ⇒廻国塔(地藏菩薩像)
- ◁道祖神

